

**海外邦人安全対策情報（平成30年4月－6月）**  
**（在ニュージーランド大使館管轄地域）**

**1 ニュージーランド(NZ)国内全体の治安情勢**

**(1) 一般治安関係**

NZ国内では、これまで大きな治安上の問題は起きていません。

しかし、NZでは強盗や侵入窃盗、車上狙いや繁華街での暴行事件が多く発生しています。そのため防犯対策には十分な注意が必要です。また、犯罪組織メンバー（いわゆるギャング）同士の抗争も発生しているため、争いに巻き込まれることのないよう、繁華街等では特に注意してください。このほかNZ国内での覚醒剤の押収量が前年比3倍増となるなど、薬物汚染が社会問題化していますので、留意してください。NZ政府は、約1,800名の警察職員増員を公約に掲げており、各種犯罪の対策を行っています。

**(2) テロ関係**

現在のところ、NZ国内でのテロリストの目立った活動は確認されていませんが、国内には30から40名程度のテロ関係の監視対象者がいると言われています。

また、昨年、シリアに渡ったNZ人男性がテロ組織ISILの一員として戦闘行為に参加していることが明らかとなり、米政府によって特別指定国際テロリストに指定されました。今後とも、NZ国内におけるテロの発生には十分注意する必要があります。

**2 犯罪の傾向**

**(1) 犯罪の発生状況**

2017年中のNZ国内における主要犯罪の発生件数は、強盗（Aggravated Robbery）が3,235件（対前年比44件増）、住居侵入と侵入窃盗（Unlawful Entry with Intent/Burglary, Break and Enter）が62,196件（対前年比2,996件減）、性犯罪（Sexual Assault）が5,351件（対前年比212件増）となっています。NZでの人口1万人当たりの強盗事件発生率は日本と比べ約46倍に上り、発生件数も増加していることから、十分な注意が必要です。特にホークス・ベイ地方では、凶器を使用した強盗事件が今年だけで既に約40件も発生しています。最近では、若者によるタバコ等を狙った強盗事件が増加していますので、コンビニエンスストアやガソリンスタンドを利用する際には、事件に巻き込まれないよう注意するとともに、事件に遭遇した場合には、抵抗することなく、犯人が金品を要求する場合には、これに応じてください。生命より大切なものはありません。

**(2) 注意すべき犯罪と対策**

何事においても、被害に遭わないためには、警戒心を持ち、周囲の変化に気を配ることが大切です。日常生活において、心配のあまり過剰に反応し過ぎる必要はありませんが、いざというときのため、普段の生活の中で、こういう事件が起こったときはこうしてみよう等、一度考えておくと、実際の事件に遭遇したとき、パニックに陥らずに対処できる可能性が高まるので、お勧めします。

**ア 窃盗**

特に侵入窃盗（空き巣など）、車上狙いや置ききに注意してください。ウェリントン空港の有料駐車場において、自動車盗の被害も報告されています。

防犯のため、自宅等に防犯用センサーや防犯カメラを設置する、貴重品やバッグを置いたまま席や車から離れないなど、日頃から自身の意識を高めてください。

また、貴重品のシリアル番号等を控えておくなど、被害に遭った際の対策も御検討ください。

#### イ 性犯罪

夜間はもちろん、昼間や夕暮れでも、人通りの少ない場所でのひとり歩きは避けましょう。自分の身は自分で守るという強い意識を持って行動することが大切です。どうしても暗い道を歩かなくてはならないときは、あらかじめ携帯電話に「111」を入力しておき、発信ボタンを押すだけの状態にしておくことも対策の一つです。

#### ウ 暴行・傷害

普段は温厚なNZ人ですが、繁華街では飲酒がらみの暴行・傷害事件が多発しています。深夜の繁華街などでは、同種の犯罪に巻き込まれないよう十分注意してください。泥酔して気が荒くなっている人を見かけたときには、相手をジロジロと見ないように気を付けながらも、その人に不意を突かれないように留意してください。

#### エ 薬物犯罪

NZでも覚醒剤（メタンフェタミン等）の乱用が社会問題になっています。繁華街の路上や深夜のバー、ナイトクラブ等で知らない人に声を掛けられても、絶対に薬物に手を出さないでください。犯罪組織などの収入源にもなっているため、NZ警察は薬物犯罪を厳しく取り締まっています。

また、NZ自動車協会の調査によると、薬物摂取の影響による交通重大事故の件数も近年急増しています（下図参照）。

交通重大事故の認知件数

	薬物関係	飲酒関係
2017年	79	70
2016年	59	67
2015年	27	66
2014年	14	48
2013年	14	53

### (3) 在ニュージーランド大使館管轄地域における最近の主な犯罪

ア 5月16日夕刻、ロワーハットのワイヌイオマタにあるコンビニエンスストアに男2人が押し入り、所持していたホッケー用スティックで店員の顎を負傷させる強盗事件が発生。後日、警察は15歳と16歳の少年を逮捕した。

イ 7月15日と16日の夜、ダニーデンのコンビニエンスストア等で、凶器を持った数名がタバコを強奪する強盗事件が連続して発生。後日、警察は27歳の男と19歳の女、20歳の女を逮捕した。NZ国内でタバコを狙った強盗事件が相次いでいることから、一部メディアは「タバコの価格高騰が強盗事件増加の一因である」と報じている。

### (4) 日本人が巻き込まれた事件・事故

5月20日、ギズボーンで、旅行中の邦人男性が顔面を殴られるなどして金品を強奪され、後日21歳の男が逮捕された。

## 3 テロ・爆弾事件発生状況

なし

#### 4 誘拐事件発生状況

なし

#### 5 日本企業の安全に関する諸問題

特に認知されていません。

※ 在オークランド総領事館、在クライストチャーチ領事事務所のホームページにも各地域の情報が掲載されています。